

DNAストレージ

- ・ 情報をDNA塩基配列 (A,T,G,Cの) 列として記憶
- ・ 次世代アーカイブ用ストレージとして研究開発が進行

【利点】

アーカイブ用ストレージに適合

- ・ 高記憶密度：～3400PB/g
- ・ 高耐久性：～750年 (10°C)
- ・ 電磁ノイズ耐性 (非磁性体)

【課題点】

既存のストレージ (HDD, 磁気テープ, 等) と異なる特性

- ・ 高誤り率：シンボル誤り, 同期 (挿入/削除) 誤り
(例) 誤り率 = $10^{-4} \sim 10^{-2}$
- ・ 記録可能な系列に制約：連長 (run-length) 制約, バランス制約 (オリゴ生成/保存過程, 読み出し機構, 等に起因)
- ・ 低スループット, 高遅延, 高コスト

課題点の解消/軽減



：研究が進んでいる項目



：研究が不十分な項目

オリゴ合成・シーケンサー技術分野

- 実験に基づくデータ
- ・ 正確な誤りモデル
- ・ 具体的な制約条件
- ・ ソースコード公開
- △ 基礎的な符号化技術
- ・ 誤り率解析の不足

情報システム技術分野

- △ アクセス方式
- ・ インターフェース
- ・ ソフトウェア

p_i : 挿入誤り確率
 p_d : 削除誤り確率

本研究

- ・ DNA通信路モデル
非対称シンボル誤り
非対称同期誤り : $p_i \neq p_d$
オリゴ消失,
アドレス部/ヘッダ部誤り
- ・ 符号化法
同期誤り訂正+制約符号
(連長制約, GCバランス)
接続符号化
- ・ 復号法
soft-input復号 (FASTQ形式)
- ・ 実用的な誤り率 $\leq 10^{-15}$
- ・ アーカイブ用途に適した
ファイルアクセス方式
- ・ オープンソースライブラリ構築

理論的な研究

符号理論分野

- 高効率な符号化/復号
LDPC符号, polar符号,
プロトグラフ,
sum-product復号,
ファクターグラフ,
複数トレース復号, ...
- ・ 理論的解析
通信路容量, 誤り率,
符号語数, ...
- △ 単純化した通信路モデル
対称シンボル誤り, $p_i = p_d$
- ・ 制約符号化の欠落
- ・ 符号パラメーターの妥当性
- ・ 多くはソースコード非公開

研究計画